

試験場の研究部紹介 野菜花き試験場 佐久支場

野菜花き試験場佐久支場では、全国有数の葉洋菜産地を抱え、葉洋菜の安定生産を支える技術開発に重点的に取り組んでいます。また、過去に薬用植物の試験を実施してきた経過から、県外の研究機関と協力して薬用植物の栽培試験を実施しています。

●東信地域の葉洋菜に対する病虫害防除、栽培試験

近年、東信地域の葉洋菜ではアブラナ科野菜の黒斑細菌病、レタスべと病、ハクサイ炭疽病、ブロッコリー花蕾腐敗病・黒すす病等の病害発生が問題となっています。これら病害の発生生態を明らかにするとともに、効果のある薬剤の選定、耕種的防除法などを組み合わせた体系防除の確立試験に取り組んでいます。

また、レタスでは、根腐病とは異なる地上部の黄化、生育遅延、根の帯状の黒変等が数年前から散見され、原因究明に努めてきた結果、平成30年にレタス黒根病を、また令和元年にレタスコルキール病を確認しました。いずれも県内または国内では初発であり、これら病害の防除対策試験を実施しています。



レタスコルキール病の病徴



レタス黒根病発病状況

栽培関係では、東信地域における夏秋季どり葉洋菜にやや作付過剰の傾向が見られるため、作付品目を誘導する必要性が高まっており、これに対応するため、ネギ、タマネギ等の栽培試験を支場内と川上村埋原の現地試験ほ場を利用して実施しています。また、一部地域で問題となっているブロッコリーのホウ素欠乏症をはじめとする、葉菜類の生理・生育障害対策試験も実施しています。

土壌肥料では、葉菜類の効率的な施肥方法による減化学肥料栽培技術の確立試験に取り組んでいます。



春まきタマネギの試験状況
(川上村埋原)



ブロッコリーの木質化不足症

●薬用作物の栽培試験

近年、漢方薬、生薬の需要が高まる中、生薬の約8割は中国からの輸入に依存しています。しかし、中国における資源枯渇や人件費上昇などによる原料価格の上昇などが危ぶまれ、国内での安定供給が望まれています。しかし、国内では栽培方法や種苗供給体制が整っておらず国内生産基盤の確立が求められています。そこで当支場では、県外の研究機関と連携し、カノコソウやセンブリ等の栽培改善に向けた試験を実施していきます。また、ミシマサイコとトウキについては栽培マニュアルを作成しました。



トウキ及びミシマサイコ(左)の栽培試験



栽培2年目のセンブリ

担当者	山田 和義	電話番号	0267-25-3080
-----	-------	------	--------------